

《ANA新千歳空港》からの
出向職員を紹介しす

今まで培ってきた おもてなし精神 を活かしたい

千歳市交流推進課国際交流係

ただ みつき
多田 光束 さん



埼玉県出身／千歳市在住／2019年ANA新千歳空港(株)へ入社し、旅客サービス業務に従事。同社と千歳市が出向協定締結後、2人目の出向職員。／社内では有志の音楽団体に所属し、スカイ・ピア&YOSAKOI祭をはじめ道内各地で演奏活動を行っている。

皆さんこんにちは。交流推進課国際交流係の多田光束です。

私は令和6年4月付けで、ANA新千歳空港株式会社から出向して参りました。

「雄大な自然と美味しい食べ物があり、温かい人がたくさんいる北海道で、人を乗せて空を飛ぶ、カッコいい飛行機の近くで働きたい」と入社し、昨年までは、新千歳空港内で搭乗手続きや改札案内業務のほか、外国の航空会社の旅客サービス業務に従事していました。

千歳市で担当する業務の一つに、千歳国際・友好都市交流協会の事務局があります。ご存じのとおり、千歳市は米国アラスカ州にあるアンカレッジ市と55年前から姉妹都市提携を結んでおり、同市のダイ

モンド高校と千歳高校の生徒による長期交換留学や6月に予定しているサンドレイク小学校の児童の受け入れなど、さまざまな国際交流事業を行っています。

このような事業に関わり、「子どもたちをはじめ市民の皆さんが世界の国々に興味を持つきっかけになるとともに、外国の方に千歳の、北海道の、日本の素晴らしい風景や文化を体験してもらえ」と考えるとワクワクする気持ちと事業を進める手が止まりません。今後も市民の皆さんに参加していただけるイベントを企画しますので、多くの方にご参加いただけますと大変うれしいです。

コロナ禍が明け、再び北海道と海外の人の行き来は活発になりました。北海道の空の玄関口である千歳市の国際交流事業が発展することは、北海道はたまた日本の国際化のさらなる発展につながるのではないかと期待しています。日本と世界各国の翼を担うANAの業務を通じて培ってきた、相手に寄り添った日本特有のおもてなし精神を活かして、千歳市の国際交流事業を盛り上げていきたいです。どうぞよろしく願いします。

先生、教えて!



乳がんについて



市立千歳市民病院
副院長 福島 剛

今回は乳がんの治療についてお話しします。

乳がんの治療には、《手術、放射線治療、薬物療法》があり、がんの進行程度や性質にもとづき選択します。

《手術》には、乳房温存手術と乳房全切除術があります。乳房温存手術はがんを含む乳房の一部を切除する方法で、通常、手術後に放射線治療を行います。乳房内での再発を防ぎます。乳房全切除術は乳房をすべて切除する方法で、がんが広範囲に広がっている場合などに行います。全切除をしても自家組織やシリコンなどを用いて乳房を再建することもできます。

わきの下のリンパ節にがんが転移していると診断された場合は、リンパ節を切除しますが、腕や手のむくみが起こる危険性があります。転移の可

能性が低い場合は、がん細胞が最初にたどっていくリンパ節のみを採取します(センチネルリンパ節生検)。

《薬物療法》には、「再発の危険性を下げる」「手術前にがんを小さくする」「手術が困難な進行がんや再発に対して延命効果を得る」などの目的があります。治療にはホルモンの分泌や動きを阻害し、ホルモンで増殖するタイプのがんを攻撃するホルモン療法薬、がんの増殖に関わるタンパク質(HER2など)や栄養を運ぶ血管などを標的にしてがんを攻撃する分子標的薬、がん細胞の増殖を邪魔すること、がんを攻撃する細胞障害性抗がん剤、がん細胞を攻撃する免疫を保つための免疫チェックポイント阻害薬などがあります。乳がんの治療には、さまざまなオプションがあるので、主治医とよく相談し治療法を選択しましょう。